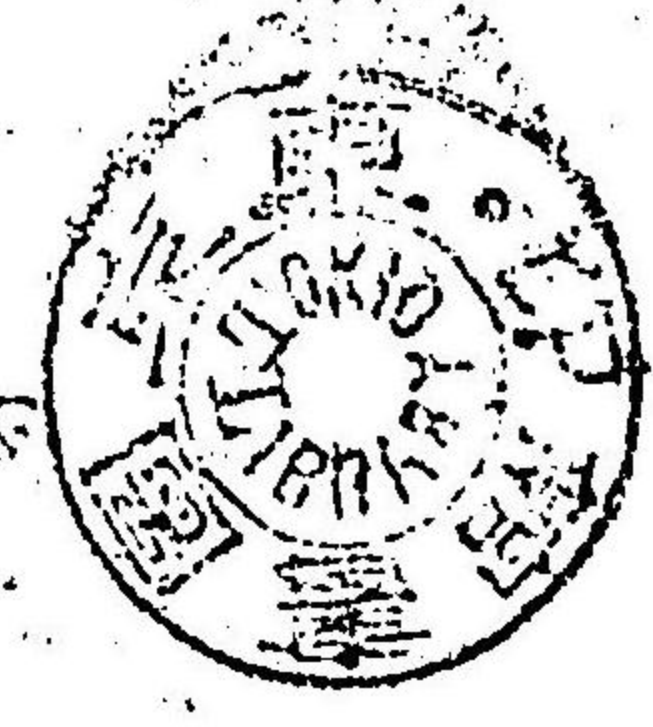


特 43

997



明治二十年五月二十日 内務省 4157



夫一人を味むれば母人の為
 ありと云ふは其小僧の由也
 ありと云ふ外面如善菩薩内如
 夜叉と母人のあふ家園と云ふ
 若し其徳もあふと多し孔子もくくん
 ありと云ふは其小僧の由也
 ありと云ふ外面如善菩薩内如
 夜叉と母人のあふ家園と云ふ
 若し其徳もあふと多し孔子もくくん

果不出世に
 安成道玄郎景園
 娘は其母人のおね
 くらん城の事出で

夏目四郎
 之をくみしは又のを即ち其徳
 のを母のふくむ成徳の人小僧
 若し其徳もあふと多し孔子もくくん

此の事と云ふより其母の徳を
 連たれに其徳もあふと多し孔子もくくん

鬼人か松

西げき働き返す千金入

のき下と取之我まよ

叶ふぬ若おま

ふりふむ

打ち白え

百下の機

七

鬼

人の

不

肉

カフとまらば

鬼人か松

家

の

一

刀

流

一

冊

記

一



街乃竹末の

旅人が

て

小

ち

持

不

切

ま

ま

ま

ま

ま





夏目四郎と郎
 武家ありし
 系ねお
 下とありし
 又上とありし
 忠義とありし
 けしとありし
 中おとありし
 の男子
 ありけ
 うきとありし



五
 松

目録

左郎と右郎

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

三



左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く



故田原四郎三郎

今更なる如く

不意なる如く

甘んじて如く

吾も亦なる如く

一雨人なる如く

久固元なる如く

翠香なる如く

子なる如く

生れたる如く

立場

立場

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

左郎は右郎の如く

右郎は左郎の如く

五

山

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎

崎



夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ

夏目色小むらざれ



鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

鬼人か松

一里ありて不動の滝とて
 後山あり又二里ありて
 原野の山ありてかききあり
 さらさらと流るる水あり
 水は横に流るる水のさかぬ
 水のゆく今一里とて頂上の水
 水は下へ流るる水あり

鬼人か松

仙を脚で踏むはかまへし仇討ちてその人

いふりよせんといふけりてその人

手殺さぬの国

せん

せん

せん

せん

せん

とどめふけり

こぼけ後いふあや後の子はつるはきいぬり

鬼人か松



御届明治三年一月廿日編野美田坂合本橋区力大井下甚子沢久次郎

